

戦争協力の罪作らない

戦争法案

今言わなければ

安倍首相は「日本を取り戻す」といいます。それは戦前のあの悪まわしい時代を取り戻すことです。特定秘密保護法、武器輸出、集団的自衛権行使、メディアへの介入。そして原発輸出。仏教の立場からすれば、全てが命の抑圧につながる反仏教です。今が戦前と同じだという危機感を持っていきます。

今の戦争法案を通してしまったらどうなる

か。必ず出る戦死者のこと、社会全体の萎縮を考えると、夜も眠れなくなる時があります。こんなに差し迫った気持ちになったのは初めてです。

何が何でも廃案
何が何でも、今回の戦争法案を廃案に追い込まなければ。瀬戸内寂庵さんがいうように「死んでも死に切れぬ」。

浄土真宗本願寺派善住職
山崎龍明さん

山崎 龍明さん



1943年東京生まれ。武蔵野大学名誉教授。念仏者九条の会よびかけ人。仏教タイムス社長。著書に『浄土真宗への誘い—アタムの願いに学ぶ』ほか。

幼児が米兵にひき殺される事件がありました。数人の米兵が立つたまま物でも見るように見下ろしている写真にショックを受けました。これが沖縄の現実だと知りました。主権を考えると、夜も眠れなくなる時があります。こんなに差し迫った気持ちになったのは初めてです。

ヘリ墜落事故も起きています。戦争法案は、新基地建設はじめ沖縄のいっそうの軍事化につながっています。国家は国を守るけれども、国民は守らない。戦争から学んだ一番の教訓です。戦前の日本は国民を守らない国家をつくってしまった。戦後何

たけれど、それを認めてはならない。敗戦でそれが瓦解したが、今また同じ方向に向いています。安倍首相が戦争法案で「取り戻そう」というのはそういう国家です。

戦前の仏教界は、物心両面において戦争協力をしてきました。戦後何の罪を背負いながら、新たな罪を作らない、作らせない。それが宗教者の最も深い倫理性ではないか。戦争協力についておわびするならば、今回の戦争法案をつぶすことに懸命になるべきだと思います。

最も大事なことは、犯した罪に敏感になることです。反省が本物だと認められるかどうかは「今」の行動にかかっています。

聞き手・中根寅一